

職員リレーエッセイ

キャッチ・ザ・レインボー

ニコニコホーム 世話人 原田 尚紀

7月14日ギター仲間からのお誘いで、今池のとあるライブハウスにて演奏させていただきました！「洋ハードロック、メタルnight」という激しめの曲メインのセッションライブという事で自分が演奏する曲は1曲のみ。ここはやらねばもったいない！と言った気持ちで自分にとって難易度が高めな、[rainbow]の「kill the king」というギターがとても目立つ曲を1か月前にリクエストしました。（タイトルにもあるキャッチザレインボーもこのバンドの有名な1曲です）それからというもの同じ曲を毎日何十回もひたすら練習という、今思えばご近所さんからしたらたまったもんじゃないうであろう、練習&練習の日々でした。

そして当日、会場は40人程のロック好きで大変賑わっていました。音楽性とは裏腹に、皆さん本当に礼儀正しくて気さくで優しい方ばかりなんですよ。しかも真面目さ故に相当練習して来ているものですから、一人一人めっちゃくちゃ上手いんですよ。皆さんの素敵な演奏をみんなで声援を送りながら過ごしていましたが15曲目、いよいよ自分の番がやってまいりました。

4カウントでギターをかき鳴らす！！最初こそ緊張もあり「上手くやらなくては」という気持ちでいっぱい表情もだいぶ硬かったのだと思います。しかしギターソロに入る際「今全力で楽しまなければもったいない！！」と音量をこれでもかというほど上げたのです。すると会場に鳴り響くギターの音、観客の声援、バンドの各パートの音、それら全てが溶け合い、会場が一体感に包まれ、



まさに悟りの境地と言うのでしょうか頭の中は嬉しい気持ちで完全に真っ白でした。気付いたときには演奏は終わり、観客の大きな拍手とともに一大ステージは幕を下ろしました。バンド仲間曰く「何かが憑依したかのように神がかった。」とべた褒めでした。（皆さん本当にやさしい方々ですよネ～）

きっと練習をやり切っていなければきっと不安と緊張で自分に負けていたと思いますし、練習をやり切ったからこそ「思いっきり楽しんでやる！」と開き直ることができ、ステージもやり切る事が出来たんだなと思います。そうする事で音にも、表情にも素直に現れ、なによりお客さんもそんな自分の姿を見て楽しい気持ちになってくれたんじゃないかなと思います。今回のライブを振り返って練習にしてもステージにしても「やり切る」事にすごく意味があるなとつくづく思いました。並大抵な気持ちでは何事もやり切るのはとても難しい事だと思います。ですが何かの縁でたまたま出会う事が出来たギターだけは、何があろうともこの先もやり切っていきたいですね。

次回はつるさと相談支援事業所 相談支援専門員 望月さんに繋がります。